

僕と水草

苅部 治 紀

僕は昔から昆虫が好きで色々と飼育していましたが、中学一年生の時に、話には聞いた事のあったタイコウチ、ミズカマキリといった水生半翅目の昆虫が売られているのを初めて見ました。それ以後水生昆虫に興味を持ち、中学三年の時には日本の水生半翅目の中では最も分布が限られ貴重なヒメタイコウチという虫を見に名古屋まで旅行しました。生息地は個体数も多くて案外簡単に目的を果たすことができたので、残りの時間を池周辺の昆虫採集にあてました。宮刈池という池でトンボの類を採集しましたがここにはジュンサイの大群落があり（というよりジュンサイの他は殆んど生えていません）、これ以来水草に興味を持ちはじめ、次の日ヒルムシロ、ヒシ、タヌキモ等を見て更に興味は深まりました。

今年は静岡の桶ヶ谷沼という処にベッコウトンボというトンボを観察に行った時に多数の水草を見て、少しずつ持ち帰り栽培をはじめました。桶ヶ谷沼ではヒシ、コウホネ、ジュンサイ、タヌキモ、クロモ、ホザキノフサモ、キクモ等が見られ、7月28日三回目を訪れた時にはオニバスも見つけました。オニバスの種子は9月19日に再び行った時、偶然浮上していたものがあり採集してきましたが、もし1mや2mなどと大きくなってしまったら栽培のしようがないと思い困っていましたが、小水面では葉は30cm位という事なので来春栽培に挑戦しようと思います。私は水生の食虫植物が好きで、特にムジナモ、フサタヌキモ等に興味があります。来春には是非ムジナモの栽培を手掛けてみたいと思っています。

(神奈川県立鶴見高校1年)

○「霧ヶ峰の植物」

(諏訪市教育委員会、昭和57年3月、頒価7,000円)

霧ヶ峰には、日本を代表する高層湿原が存在するが、この本は、その長年にわたる調査結果の集成である。

第I部「霧ヶ峰の植生」(246頁)では、霧ヶ峰の環境について概説したあと、湿原およびその周辺に見られる植物群落を、写真、植生断面図、種組成表などで詳細に記録している。過去の調査結果との比較をとおして、その変遷も明らかにし、最後に、観光客の急増による自然の破壊とその保護の問題にふれている。第II部「霧ヶ峰の植物目録」(113頁)では、地衣類、コケ類も含めた全

植物のリストと、180葉のカラー写真で霧ヶ峰の植物を紹介している。付録として湿原の詳しい植生図と各植物群落の組成表がついている。

照会は、〒392長野県諏訪市高島1-22-30、諏訪市教育委員会社会教育課へ。(角 野)

事務局の移転について

前回の会報でもお知らせしましたように、水草研究会の事務局は10月より京都に移っております。入退会や住所変更、会費納入は、全て新事務局の方へお願いします。

〒606京都市左京区北白川追分町

京都大学農学部 応用植物研究室内

水草研究会

振替口座 京都5-16477

なお、会報の編集事務は、従来どおり神戸大学の方でやっております。

会費納入のお願い

昭和58年度会費(2,000円)の納入をお願いします。

送金先 振替口座 京都5-16477

水草研究会

なお、57年度会費が未納になっている方は、あわせて納入願います。

会員移動<新入会>